# 3　沖縄本島沖から得られた深海性サメ類の1稀種

**A rare species of deep-water shark collected from the Pacific off Okinawa Island**

佐藤　圭一・戸田　実・内田　詮三（沖縄美ら海水族館）
Keiichi Sato, Minoru Toda and Senzo Uchida (Okinawa Churaumi Aquarium)

沖縄美ら海水族館では展示生物収集の一環として、沖縄周辺の深海生物採集を行うとともに、沖縄周辺の深海生物相の調査を行っている。生物採集は主に、カゴ、一本釣り、延縄、刺網、無人潜水艇などにより行われる。採集地は沖縄周辺の水深100-1000m海域で、2000年～2004年の間に合計30種以上の深海性サメ類を採集した。本調査の中で日本近海においては初記録となる稀種 *Odontaspis noronhai* が1個体採集されたため、詳細な形体観察を行った。

本個体は2004年3月12日に沖縄県本部漁協所属の美代丸（金城順治船長）により、北緯26°10′N、東経129°10′－15′Eの太平洋海域において、水深500m付近に仕掛けられたソデイカ *Thysanoteuthis rhombus* 漁の疑似餌に掛かり水揚げされた。本個体は全長155.5cmの未成熟メスで、体色が全体に黒褐色を呈し斑紋が無いこと、円形の大きな眼を持つこと、きわめて長く鋭い主尖頭と1対の側尖頭からなる歯を持つこと(rows34/35)などの形質から、オオワニザメ科の *Odontaspis noronhai* (Maul, 1955)と同定された。

本種はマデイラ諸島近海の水深600-1000m付近を模式産地とし、以来ブラジル、メキシコ湾、インド洋セイシェル諸島、南太平洋マーシャル諸島などで採集された記録があるが、それらの多くは信頼性に欠ける情報であった。また、現存する標本数が数個体に限られているため、生物学的な知見にもきわめて乏しく、その詳しい生態や食性などは未だ不明である。Compagno (2003)によると、本種は沿岸域～外洋の表層域から底層域のあらゆる海域を移動していると推定した。本個体は、水深 1000mを越える海域において中層 500m 付近で採集されたことから、本種が底層域だけではなく中層域にも分布し、摂餌を行っている事が裏付けられた。

本種の液浸標本としては、現在世界で4個体（＋数個体？）程度の報告が存在するのみで、模式標本も損傷を受けていることから、本個体は採集地データが明確なことや損傷を受けていないことから、きわめて貴重な標本であると考えられる。